

Brahms



J.ブラームス作曲

ドイツ・レクイエム / アルト・ラプソディー

番場俊之作曲 / アヴェ・マリア(初演)

2007年9月1日[土]

1:30pm 開場 2:00pm 開演

紀尾井ホール

合唱：東京合唱団 / 共演：学習院OB混声合唱団

ご挨拶

本日はみなさまご多忙の中、私ども東京合唱団の演奏会にご来場いただきましてまことにありがとうございます。

当団は1954年に故前田幸市郎先生を中心として創立された50年を超える歴史を持つアマチュア合唱団です。1989年の幸市郎先生のご逝去によりしばらく活動を休止しておりましたが、1997年に幸市郎先生のご息の前田幸康先生を指揮者としてお迎えして、新生東京合唱団として再スタートいたしました。昨年は早くもその10周年の節目を迎えてモーツァルトの名曲3曲を演奏いたしましたがおかげさまで大成功の公演となりました。この10年間、多くの先輩団員方の情熱と献身により高品質の演奏会活動を積み重ねてくることが出来ましたが、これもひとえにプロの音楽家、アマチュアの音楽愛好家を含めて我々を支えていただいた多くの方々のご協力があって初めて成し得たことと深く感謝しております。

本日の演奏会ではブラームスの「ドイツレクイエム」と「アルトラブソディー」、それに現在ドイツでご活躍中の新進気鋭の作曲家、番場俊之先生の「アヴェマリア」を演奏いたします。メインステージのドイツレクイエムは当団創立の翌年1955年に演奏されて以来、当団でも何回もの再演を重ねてきております。新生東京合唱団の新たなる10年のスタートの年に当たり、原点ともいふべきドイツレクイエムを取り上げることもまた意義深いものがあると考えております。

夏まだ去りやらぬ紀尾井ホールに、今年もまたみなさまをお迎えすることができこの上ない喜びでございます。どうかごゆっくりと午後のひと時をお楽しみください。

次回の演奏会は来年9月6日(土)にメンデルスゾーンのオラトリオ「パウロ」を予定しております。来年も引き続きご来聴いただけるようお願い申し上げますとともに、当団の活動にご関心を持たれた方には、是非当団に参加され一緒に歌っていただけるようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本日の演奏会の開催にあたり「前田幸康サポータークラブ」ならびに「学習院OB混声合唱団」より多大なご支援、ご協力をいただきました。本紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

東京合唱団委員長 宮本昭彦

番場俊之
Toshiyuki Banba

アヴェ・マリア
Ave Maria

独唱 ○ メゾソプラノ 寺谷千枝子

ブラームス
Johannes Brahms

アルト・ラブソディー
Alt Rhapsodie Op.53

独唱 ○ アルト 寺谷千枝子

————— 休 憩 —————

ブラームス
Johannes Brahms

ドイツ・レクイエム
Ein Deutsches Requiem Op.45

- I Selig sind, die da Leid tragen
- II Denn alles Fleisch ist wie Gras
- III Herr, lehre doch mich, dass ein Ende
- IV Wie lieblich sind deine Wohnungen
- V Ihr habt nun Traurigkeit
- VI Denn wir haben hie keine bleibende Statt
- VII Selig sind die Toten, die in dem Herrn sterben

独唱 ○ ソプラノ 平松英子
○ バリトン 太田直樹

指揮 ○ 前田幸康

合唱 ○ 東京合唱団
学習院OB混声合唱団

管弦楽 ○ KMG管弦楽団

演奏者・作曲者紹介



Yukiyasu Maeda Director & Conductor

前田 幸康

(音楽監督・指揮)

国立音楽大学卒業。チェロを故小沢弘、故黒沼俊夫、小野崎純の各氏に師事。

N響、日フィル等のオーケストラでフリーのチェリストとして活躍し、東京ソリスTEN等の室内楽にも力を注ぐ。現神奈川県フィルハーモニー交響楽団の前身であるロリエ管弦楽団を故金子登、故前田幸市郎と設立し、初代チェロ第一首席奏者を務める。1973年に渡欧し、Prof.マルティン・オースタータークに師事。1974年1月よりフライブルク市立交響楽団のメンバーとなり、現在に至る。故前田幸市郎から指揮の指導を受け、1990年以来、日本において指揮活動をしている。W.A.モーツァルト「レクイエム」、J.G.L.モーツァルト「ミサソレムニス」(日本初演)、グラウンのオラトリオ「イエスの死」(日本初演)、ブラームス「ドイツレクイエム」、J.S.バッハ「ミサ曲口短調」「ヨハネ受難曲」、フォーレ「レクイエム」、ヘンデル「メサイア」等を東京合唱団の指揮者として演奏する。

1985年よりプロアルテ・カンマー・オーケストラ・フライブルクの首席チェロを務めた。

同年にまたフライブルク市よりカンマームジーカーの称号を贈られ、1989年には外国人としては最高の功労賞メダルを同市より授与された。



Eiko Hiramatsu Soprano

平松 英子

(ソプラノ)

東京芸術大学、同大学院修了。ドイツ政府奨学生(DAAD)としてミュンヘン音楽大学に留学。マイスタークラス在学中にバッハ・コレギウム・ミュンヘンのJ.S.バッハ「ヨハネ受難曲」でデビュー。修了後、西ドイツの複数の劇場と契約しモーツァルトの歌劇「魔笛」のパミーナ役でオペラデビュー。また宗教曲のソリストとしても、ヘルマン・プライやペーター・シュライヤー、エディット・マティスなどと共演、高い評価を獲得する。そして11年間ドイツにて活動後、歌劇「魔弾の射手」エンヒェン役で帰国デビュー。以来拠点を日本に移し、オペラからオラトリオ、歌曲まで幅広く活躍。その柔軟な音楽性は、日本を代表するリリックソプラノとして、今は亡き巨匠ジュゼッペ・シノーポリをはじめ国内外の多くの指揮者の賞賛の的となっている。フェリス女学院大学音楽学部教授、東京芸術大学講師。ジロー・オペラ新人賞受賞。

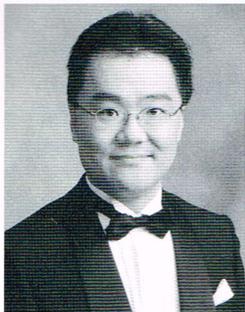


Chieko Teratani Mezzo-Soprano

寺谷 千枝子

(メゾ・ソプラノ)

東京芸術大学卒、同大学院終了。ハンブルク国立音楽大学声楽科、オペラ科共に首席で卒業。在学中、メスフィールド賞を受賞。1980年、オランダのセルトヘンボス国際声楽コンクール第2位入賞。1981年ドイツのプレーマーハーフェン歌劇場とソロ専属契約を結び、「ばらの騎士」のオクタヴィアンでデビュー。以来ドイツを中心に、ヨーロッパ各地で活躍。1990年にはニューヨークでアメリカ・デビューを果たすほか、世界的ブームとなったポーランドの作曲家グレツキの交響曲第3番「悲歌のシンフォニー」をドイツ、アメリカ、オランダ、日本で初演した。日本でも小澤征爾、若杉弘、大野和士、沼尻竜典、サンティ、インバル、デュトワ、シャイー、チョン、フルネ、レナルト、コルボ、ベルティーニなどといった著名指揮者のもと数々のステージに迎えられ、ヨーロッパでの名声を裏付ける実力を披露して評価を高めている。東京芸術大学教授、国立音楽大学非常勤講師。



Naoki Ota Baritone

太田 直樹

(バリトン)

東京藝術大学大学院修了。シュトゥットガルト音楽大学修了。オペラ研修所第8期修了。声楽を伊藤亘行、G・ライヒの各氏に師事するほか、90年～04年E・ヘフリガー氏のマスタークラスに参加。新国立劇場、二期会、東京室内歌劇場、東京オペラ・プロデュース等のオペラ、「冬の旅」「美しき水車小屋の娘」全曲演奏会、浜離宮朝日ホール・ヴォルフ歌曲全曲演奏会シリーズ、草津国際夏期音楽祭などに出演。また、シャルパンティエ、パッサ、ヘンデル、ハイドン、モーツァルト、ニコライ、ベートーヴェン、フォーレ、ブラームス、デュリュフレ等の宗教曲の独唱を多くつとめている。最近ではオペラ「ゼッキンゲンのトランペット吹き」(日本初演)、スロヴァチエフスキ指揮ザールブリュッケン放送管弦楽団「第九」などに出演。国立音楽大学、桐朋学園芸術短期大学、東京都立芸術高校講師、二期会会員、東京室内歌劇場会員、東京オペラ・プロデュース・メンバー。



Toshiyuki Banba

番場 俊之

(アヴェ・マリア作曲)

1963 京都生まれ、3歳のころよりピアノを始める。
1983~87 ニューヨークのマンハッタン音楽院で作曲とピアノを学ぶ。
1987~ ドイツのフライブルグカッセルを経て1995年よりベルリンに在住。
1993 ヴァイオリン・ソロのための「Odor of Time-Snow(時の香り・雪)」が武満徹主催のMusic Today作曲コンクールで一位なしの二位受賞。
1996 ドイツ、マグデブルグのテレマン協会より、テレマン生誕300年記念のために委嘱された「22ソロ弦楽器のための "Wind"」がマグデブルグ州立歌劇場オーケストラにより初演。
2002~04 アカデミカコールの委嘱による子規の短歌による男声合唱組曲第一番「櫻茂りて」の一連の曲を初演。
2003 「櫻茂りて」の中から混声合唱とオーケストラのために編曲された「星の歌」が、東京合唱団とKMG管弦楽団により初演。
2006 ベルリン芸術アカデミーにおいて、弦楽四重奏曲「Epitaph」(2005) 初演。
アカデミカコールの委嘱による子規の短歌による男声合唱組曲第二番として「待てば久しも」初演。
その他、室内楽曲を中心に作曲編曲活動を行い、ドイツをはじめ、ヨーロッパや日本で演奏される。

KMG管弦楽団

東京合唱団の創設者、故前田幸市郎氏により1982年にKMG合奏団として組織された。東京近郊の第一線クラスのソリストにより結成され、名人芸的なアンサンブルを醸し出す。特にバロック音楽では高い水準を維持している。

《曲解説》

番場俊之作曲 アヴェ・マリア (Ave Maria)

この曲は、ドイツを中心にヨーロッパで活躍する友人のイタリア人オペラ歌手ファビアン・マルティノ (Fabian Martino) から委嘱されたもので、様々な作曲家のアヴェ・マリアを集めたCD製作の一貫として作曲しました。そのCDの性格上、いわゆる「現代音楽」的なアプローチは避け、だれもが歌いやすく親しみやすい音を目指しました。

原曲はソプラノとテノール、そしてピアノ伴奏によるものですが、

解説：番場 俊之

この編曲(メゾソプラノと男声合唱、それにオーケストラのため)に伴い、原曲の静かで清らかなイメージとは若干異なり、オーケストラの各楽器による変奏やコーラスでの和声の重なり等ドラマチックな要素も含まれています。

今日のプログラムに2曲用意されているブラームスの曲、そのロマンティズムとはまた違った響きを聴き取っていただければ幸いです。

J.ブラームス作曲 アルト・ラプソディー (Alt Rhapsodie) 作品53

アルト・ラプソディー 雑感

J.ブラームスの「アルト・ラプソディー」は男声合唱陣にとっては、憧れの曲である。アルトソロとその分厚い響きの融合に心引かれる。東京合唱団では1980年にこの曲を演奏しているが、男声合唱として、東京大学コール・アカデミーと学習院大学男声合唱団およびOB男声合唱団も参加している。また今回も男声合唱に特別参加しているものもある。

J.ブラームスは、この曲をドイツ・レクイエムの1年後1869年に作曲している。敬愛するシューマンの娘ユーリエに秘かに恋慕の情を抱いていたが、他の男性と婚約したと聞いて、ゲーテの詩にその思いを載せて作ったという。ゲーテの詩「冬のハルツの旅」よりの断章からの若者に自分を投影して、孤独な男の姿が浮かびあがる。曲は3部よりなり、最後が男声合唱の出番になる。1・2部は短調で不安な気持ちを示すアルトの独唱である。1部は荒野に行く男の後姿が目につかぶ。2部はその心を映す。はじめは侮どられ、いまは侮どる者となり、充たされぬ自我の妄執にとらわれる。しかし3部は長調で魂の救いを求

解説：富松 太基

める男声合唱の響きと一緒に。この男声を若い時の感傷と共に男たちは求めるのである。

J.ブラームスがアルトソロを採用した理由を私なりに考えてみたい。「女性」は男にとっては恋慕の対象であり、「母」の姿と2重写しになる。クララ・シューマンを想い続けたことは周知の事実であり、その娘に様々な面影を見たことであろう。自分の心の内を打ち明けるにはソプラノでは無理である。強い母のイメージはアルトにしか託せないだろう。ドイツ・レクイエムが亡き母に捧げた曲であるなら、もちろんアルト・ラプソディーはもう一人の「母」に捧げたものであろう。レクイエムがソプラノならラプソディーはアルトであろう。さらに今回、番場俊之氏がアヴェ・マリアを作曲してメゾソプラノのソロと男声合唱との編曲をしているが、それは現代の母(聖母)に捧げるのものであると考えることは穿った見方だろうか。そしてここではさらに高みに近づいた存在として、アルトでなくメゾソプラノが歌っている。ぜひ三人の「母」を感じて聴いていただければさいわいである。

J.ブラームス作曲 ドイツ・レクイエム (Ein Deutsches Requiem) 作品45

解説：上野 紘機

ドイツ・レクイエムは「さいわいである(Selig sind)」で始まり、そして終わる。このSelig sindの2語にこの曲のテーマが凝縮されている。悲しむ人たちは幸いである、なぜなら彼らは慰められるからである。労苦に耐えた人々には、いずれ楽しみと喜びが訪れ、悲しみと嘆きは逃げ去る。いつか主と結ばれて死ぬ運命の人たちは幸いである、なぜなら労苦から解放されて安らぎを得るからである。このようにドイツ・レクイエムに貫かれているのは、救いと慈愛の思想である。それも死んだ人に対するものではなく、今を生きる人、嘆き悲しみ、労苦を担う人に対する救いと慈愛である。これはもちろんキリスト教という宗教思想が基本になっているが、それを越えた普遍性があるように思える。だからこそ、この曲は国境を越え、時代を超えて歌い継がれているのであろう。

ドイツ・レクイエムは、ヨハネス・ブラームス(1833-1897)が1868年5月に完成した。彼が35歳のときである。これに先立ち1868年4月10日にブレーメンで第V章を除く6曲が初演された。恩師シューマンの未亡人クララ・シューマンや、生涯の友人でありブラームス音楽の最大の理解者であったヨアヒム他、多数の著名な音楽家・友人がこの初演を聴き、大きな感動を受けたという。ブラームスの名声は不動のものとなり、ドイツ・レクイエムは音楽史上およびレクイエム史上燦然と輝く存在になったのである。この初演から1ヵ月後には第V章「このように、あなたがたにも今は不安がある」が追加され、全部で7章からなる現在の形が完成した。

ブラームスがこの曲を作曲する直接のきっかけになったの

は、母の死(1865)だったといわれている、しかし、曲の完成に約10年を要した(第II章はすでに1857-59年に書かれていたということから見て、むしろ神のように敬っていた恩師ロベルト・シューマンの悲劇的な死(1856)が、大きな影響を与えたはずである。ブラームスは一生シューマンを敬い続けただけでなく、シューマン夫人であるクララには敬愛以上の感情を持ち続けたといわれる。そのクララが前述のブレーメンの初演で感動のあまり涙し、「レクイエム史上最大の傑作」と賞賛したと伝えられているが、そのときのブラームスの誇らしさはいかばかりであったであろう。

ドイツ・レクイエムには、他のレクイエムとは異なる3つの大きな特徴がある。

第1は、言うまでもなく「ドイツ」レクイエムであって、テキストがドイツ語で書かれている。レクイエムは通常カトリック教が定めた典礼文にしたがって作られる。その出だしが「Requiem aeternam dona eis, Domine」(永遠の安らぎを与えたまえ、主よ)であるので、「レクイエム」と呼ばれるのである。日本語では「鎮魂歌」と訳されるように、本来は死者の霊を慰めるためのミサ曲である。ところが、ブラームスのドイツ・レクイエムはカトリックの典礼文にはよらず、ルターが訳したドイツ語の新旧約聖書や聖書外典にテキストを求めている。テキストはブラームス自らが選択したものであり、詩文と音楽との一体化を目指していたことがわかる。ブラームスの目指すレクイエムはラテン語の典礼文では十分表現できないと考えたに違いない。

第2に、この曲は死者の鎮魂のためというよりも、前述の通り

今生きる人たちの救いのために書かれていることである。テキストの選択と配置からも明らかであるが、死者の慰めを求めているのではなく、生きている人たちが親しい人を失い生き残された人たちの救いを求めているのである。これはブラームス自身の心の内面を吐露しているようにも思える。悲しむ人、悩む人、苦勞している人に救いがなくてはならないことを、ブラームスは誰よりも訴えたのではないだろうか。

第3に、この曲はミサのために書かれたのではなく、演奏会を目的として書かれていることである。従って、優れた構想力と感動を与えずにはおられない旋律とハーモニーの連鎖の上に構築されている。この曲は7章からなるが、いろいろな専門家が指摘しているように、第IV章を中心としてIとVII、IIとVI、IIIとVがシンメトリックになるように構成されている。また、IIIとVI(いずれもバリトン独唱が入る)を対比させることもできる。

第I章はヘ長調で、「さいわいである(Selig sind)」で静かに始まり、この曲全体の動機が提示される。「かなり緩やかに、表情をもって」と指定されている。Selig sindが繰り返された後、ハーブとともに静かに消え入るように終わる。

第II章は変ロ長調、「行進曲風に」の指定があり、「人はみな草のごとく、その栄華はみな、草の花に似ている。草は枯れ、花は散る」のユニゾンが4回繰り返される。その後“Aber des Herrn Wort bleibet in Ewigkeit”(しかし、主の言葉は、とこしえに残る)から曲想が完全に変わり、すぐ後の“Die Erloesten des Herrn...”(主にあがなわれた者は...)からアレグロ・ノン・トロッポで速度を上げ、永遠の楽しみと喜びを得る

ことを歌い上げる。

第III章はニ短調、ドイツ・レクイエムの一つの峰を形成するもので、バリトンの独唱「主よ、わが終りと、わが日の数のどれほどであるかを、わたしに知らせ、わが命のいかに、はかないかを知らせて下さい。」で始まる。後半は壮大なフーガになっており、神への信仰の篤さを幾重にも歌い上げる。

第IV章は変ホ長調、第III章とは違って変わり、リズム感あふれ美しい旋律の連続する曲で、主の家の気高さを歌う。

第V章はト長調、ソプラノ独唱が主導し天上の音楽のように美しい曲。「母のその子を慰めるように、わたしもあなたがたを慰める。」で終わる。この曲の慈愛のテーマがソプラノと合唱の掛け合いで見事に表現されている。

第VI曲はハ短調、ドイツ・レクイエムのもう一つの峰として聳える楽章である。バリトン独唱が「ここで、あなたがたに奥義を告げよう。」と歌う。そして「終わりのラッパ」が響き渡ると、最後の審判を想起させる緊張の合唱とオーケストラの掛け合いが続き、最後には壮大なフーガとなって「死は勝利に吞まれ」、主を高らかに讃えて終わる。

第VII章はヘ長調、優美なソプラノのパートソロで始まり、第I章のテーマが再現される。最後にはハーブの響きの中でSeligの言葉とともに感動的に終わる。

ドイツ・レクイエムがブラームスの傑作中の傑作であることは間違いのない。実を言うと、この曲を歌い、演奏する人たちこそがもっとも「さいわいである」のかもしれない。



アヴェ・マリア

Ave Maria

歌詞対訳

Ave Maria, gratia plena,
 Dominus tecum,
 benedicta tu in mulieribus,
 et benedictus fructus ventris tui, Jesus.
 Sancta Maria, Mater Dei,
 ora pro nobis peccatribus,
 nunc, et in hora mortis nostrae. Amen.

恵み溢れる聖マリア、
 主はあなたとともにおられます。
 主はあなたを選び、祝福し、
 あなたの子イエスも祝福されました。
 神の母聖マリア、
 罪深い私達の為に、
 今も、死を迎える時も祈って下さい。アーメン。

アルト・ラプソディー

Alt Rhapsodie Op.53

歌詞対訳

Aber abseits, wer ist's?
 Ins Gebüsch verliert sich sein Pfad,
 Hinter ihm schlagen

だが、一人離れている、あれは誰だろう？
 その小径は藪の中に消え
 彼の背後で

Die Sträucher zusammen,
Das Gras steht wieder auf,
Die Öde verschlingt ihn.

繁みはとぎされ
草は再び立ち上がり
荒野が彼を呑んでいる。

Ach, wer heilet die Schmerzen
Des, dem Balsam zu Gift ward?
Der sich Menschenhass
Aus der Fülle der Liebe trank!
Erst verachtet, nun ein Verächter,
Zehrt er heimlich auf
Seinen eignen Wert
In ung'nügender Selbstsucht.

ああ、香油をも毒とする者の
その苦悩を誰がいやせよう？
あふれる愛からさえ
人間の憎悪をあじわうのだ！
はじめは侮どられ、いまは侮どる者となり
彼は、いつしか
みずからの価値を食いほろぼす
充たされぬ自我の妄執にとらわれて。

Ist auf deinem Psalter,
Vater der Lieb, ein Ton
Seinem Ohre vernehmlich,
So erquickte sein Herz!
Öffne den umwölkten Blick
Über die tausend Quellen
Neben dem Durstenden
In der Wüste!

慈悲深き父よ、あなたの豎琴に
あの男の耳に聴きとれる
一つの調べがあるのなら
彼の心を楽しませ給え！
あの曇った瞳をひらかせて
砂漠で、かわき果てた者のかたわらにも
多数の湧水があることを
見出させ給え！

(ゲーテ「冬のハルツの旅」より)

ドイツ・レクイエム

Ein Deutsches Requiem Op.45

歌詞対訳

I

Selig sind, die da Leid tragen,
denn sie sollen getröstet werden.

悲しんでいる人たちはさいわいである。
彼らは慰められるであろう。

(マタイによる福音書：第5章 第4節)

Die mit Tränen säen,
werden mit Freuden ernten.

涙をもって種をまく者は、
喜びの声をもって刈り取る。

(詩篇：第126篇 第5節)

Sie gehen hin und weinen
und tragen edlen Samen,
und kommen mit Freuden

種を携え、涙を流して
出て行く者は、
束を携え、喜びの声をあげて

und bringen ihre Garben.

帰ってくるであろう。

(詩篇：第126篇 第6節)

II

Denn alles Fleisch ist wie Gras
und alle Herrlichkeit des Menschen
wie des Grases Blumen.
Das Gras ist verdorret
und die Blume abgefallen.

人はみな草のごとく
その栄華はみな
草の花に似ている。
草は枯れ、
花は散る。

(ペテロの第1の手紙：第1章 第24節)

So seid nun geduldig, lieben Brüder,
bis auf die Zukunft des Herrn.
Siehe, ein Ackermann wartet
auf die köstliche Frucht der Erde
und ist geduldig darüber, bis er empfahe
den Morgenregen und Abendregen.

だから、兄弟たちよ。
主の来臨の時まで耐え忍びなさい。
見よ、農夫は、地の尊い実りを、
前の雨と後の雨とがあるまで、
耐え忍んで
待っている。

(ヤコブの手紙：第5章 第7節)

Denn alles Fleisch ist wie Gras
und alle Herrlichkeit des Menschen
wie des Grases Blumen.
Das Gras ist verdorret
und die Blume abgefallen.
Aber des Herrn Wort
bleibet in Ewigkeit.

人はみな草のごとく
その栄華はみな
草の花に似ている。
草は枯れ、
花は散る。
しかし、主の言葉は、
とこしえに残る。

(ペテロの第1の手紙：第1章 第24節)

Die Erlöseten des Herrn
werden wieder kommen,
und gen Zion kommen mit Jauchzen;
ewige Freude wird über ihrem Haupte sein;
Freude und Wonne werden sie ergreifen,
und Schmerz und Seufzen wird weg müssen.

主にあがなわれた者は、
帰ってきて、
その頭に、とこしえの喜びをいただき、
歌うたいつつ、シオンに来る。
彼らは楽しみと喜びとを得、
悲しみと嘆きとは逃げ去る。

(イザヤ書：第35章 第10節)

III

Herr, lehre doch mich,
dass ein Ende mit mir haben muss,
und mein Leben ein Ziel hat,
und ich davon muss.

主よ、わが終わりと
わが日の数のどれほどであるかを
わたしに知らせ、わが命のいかに
はかないかを知らせて下さい。

(詩篇：第39篇 第4節)

Siehe, meine Tage sind einer Hand
breit vor dir,
und mein Leben ist wie nichts vor dir.

見よ、あなたはわたしの日を
つかのまとされました。
わたしの一生はあなたの前では無にひとしいのです。
(詩篇：第39篇 第5節)

Ach wie gar nichts sind alle Menschen,
die doch so sicher leben.
Sie gehen daher wie ein Schemen,
und machen ihnen viel vergebliche Unruhe;
sie sammeln und wissen nicht
wer es kriegen wird.
Nun Herr, wess soll ich mich trösten?
Ich hoffe auf dich.

まことに人は影のように
さまよいます。
まことに彼らは
むなしいことのために騒ぎまわるのです。
彼は積みたくわえるけれども、
だれがそれを収めるかを知りません。
主よ、今わたしは何を待ち望みましょう。
わたしの望みはあなたにあります。
(詩篇：第39篇 第6~7節)

Der Gerechten Seelen sind in Gottes Hand
und keine Qual rühret sie an.

正しい者の魂は神のみ手にあって、
いかなる責苦も彼らに届くことはない。
(旧約続篇：ソロモンの智恵：第3章 第1節)

IV

Wie lieblich sind deine Wohnungen,
Herr Zebaoth!
Meine Seele verlangt und sehnet sich
nach den Vorhöfen des Herrn;
mein Leib und Seele freuen sich
in dem lebendigen Gott.

万軍の主よ、あなたのすまいは
いかに美しいことでしょう。
わが魂は絶えいるばかりに
主の大庭を慕い
わが心とわが身は
生ける神にむかって喜びを歌います。
(詩篇：第84篇 第1~2章)

Wohl denen, die in deinem Hause wohnen,
die loben dich immerdar.

あなたの家に住み、
常にあなたをほめたたえる人はさいわいです。
(詩篇：第84篇 第4節)

V

Ihr habt nun Traurigkeit;
aber ich will euch wieder sehen
und euer Herz soll sich freuen,
und eure Freude soll niemand
von euch nehmen.

このように、あなたがたにも今は不安がある。
しかし、わたしは再びあなたがたと会うであろう。
そして、あなた方の心は喜びに満たされるであろう。
その喜びをあなたがたから
取り去るものはいない。
(ヨハネによる福音書：第16章 第22節)

Sehet mich an:
Ich habe eine kleine Zeit
Mühe und Arbeit gehabt

眼をもって見よ。
いかにわたしが少く労して
わたしのために

und habe grossen Trost funden.

多くの休みを得たかを。

(旧約続篇：ベン・シラの智恵：第51章 第27節)

Ich will euch trösten,

母のその子を慰めるように

wie Einen seine Mutter tröstet.

わたしもあなたがたを慰める。

(合唱のみ：イザヤ書：第66章 第27節)

VI

Denn wir haben hie keine bleibende Statt,

この地上には永遠の都はない。

sondern die zukünftige suchen wir.

きたらんとする都こそ、わたしたちの求めているものである。

(ヘブル人への手紙：第13章 第13節)

Siehe, ich sage euch ein Geheimnis:

ここで、あなたがたに奥義を告げよう。

Wir werden nicht alle entschlafen,

わたしたちすべては、眠り続けるのではない。

wir werden aber alle verwandelt werden;

終りのラッパの響きと共に、

und dasselbige plötzlich, in einem Augenblick,

またたく間に

zu der Zeit der letzten Posaune.

一瞬にして変えられる。

Denn es wird die Posaune schallen,

というのは、ラッパが響いて、

und die Toten werden auferstehen

死人は朽ちない者に

unverweslich,

よみがえらされ、

und wir werden verwandelt werden.

わたしたちは変えられるのである。

Dann wird erfüllet werden

そのとき、聖書に書いてある

das Wort, das geschrieben steht:

言葉が成就するのである。

Der Tod ist verschlungen in den Sieg.

「死は勝利に吞まれてしまった。

Tod, wo ist dein Stachel?

死よ、おまえの勝利はどこにあるのか。

Hölle, wo ist dein Sieg?

死よ、おまえのとげはどこにあるのか」。

(コリント人への第1の手紙：第15章 第51～55節)

Herr, du bist würdig zu nehmen

われらの主なる神よ、あなたこそは、

Preis und Ehre und Kraft,

栄光とほまれと力とを受けるにふさわしいかた。

denn du hast alle Dinge geschaffen,

あなたは万物を造られました。

und durch deinen Willen haben sie das Wesen

御旨によって、万物は存在し、

und sind geschaffen.

また造られたのであります。

(ヨハネの黙示録：第4章 第11節)

VII

Selig sind die Toten,

今から後、

die in dem Herrn sterben,

主にあって死ぬ人は

von nun an.

さいわいである。

Ja der Geist spricht,

御霊も言う、

dass sie ruhen von ihrer Arbeit;

「しかり、彼らはその労苦を解かれて休み

denn ihre Werke folgen ihnen nach.

そのわざは彼についていく」。

(ヨハネの黙示録：第14章 第13節)

◆東京合唱団演奏会出演者

合唱：東京合唱団・学習院OB混声合唱団
指揮者：前田 幸康
練習ピアニスト：渡辺 敏生

ソプラノ

牛津佐和子
大塚恵美子
萩野 直美
奥田 秀子
越知 廣子
川合 久美
小池 直子
坂井田廣子
佐藤 悠子
田村 典子
長 恭子
平澤 智子
羅 順英

アルト

板倉由美子
今溝 恵子
小笠原みどり
梶原 典子
佐々木紀代子
永澤麻衣子
花形 由美
濱野奈津美
三井 匡子
八島 紀子
山田 久子

テノール

青田 正平
上野 紘機
上島 敏
神林 紘一
岸 証文
木村 治隆
笹村寛太郎
塩谷 隆英
富松 太基
橋本 素直
丸山 周次
宮本 昭彦

バス

青木 修三
安彦 克己
荒川 昌夫
岩本 宗孝
小川 尚夫
奥田 治仁
葛西 英一
近藤 安雄
清水 重男
杉村 俊哉
津守 滋
西尾 直人
沼田 盛也
野口 洋一
広畑 俊成
松前 孝廣
山岡 成行
山口 和
山中 清孝
山根 明
山本皓之助
吉岡 端也

◆KMG管弦楽団

第1ヴァイオリン

◎室谷 高廣
萩野 照子
徳井 えま
松崎 素子
天日 倫代
宮川 芳江

第2ヴァイオリン

清水 醍輝
船山 嘉秋
佐藤 明美
野村 良子
宮林 陽子

ヴィオラ

河合 訓子
原口 朝子
宇佐美久恵
高野 香子
前田 利祐

チェロ

羽川 真介
松本 卓以
寺井 創
石 豊久
井崎 瑛恵

コントラバス

桜井 茂
那須野直裕

フルート

白尾 隆
西村 麻理

ピッコロ

大泉 水季

オーボエ

小畑 善昭
是澤 悠

クラリネット

恩智 聡子
元木 瑞香

ファゴット

前田 信吉
狩野 智子

ホルン

岡村 陽
村本 岳史
小林 祐治
伊勢 久視

トランペット

神代 脩
金城 和美

トロンボーン

倉田 寛
府川 雪野
野ノ下興一

チューバ

久保 憲

ハーブ

三宅 美子

ティンパニー

藤本 隆文

◎はコンサートマスター

●東京合唱団演奏歴

*印は本邦初演

演奏年月日	演奏曲目	独唱者	オーケストラ・指揮者	備考
1954.11.29	ヴェルディ レクイエム	柴田喜代子 川崎 静子 柴田 睦陸 秋元雅一朗	東京交響楽団 前田幸市郎	学習院合唱団・鎌倉コールと合同
1955.7.9	ベートーベン 交響曲第9番	柴田喜代子 岡部多喜子 柴田 睦陸 伊藤 亘行	東京交響楽団 前田幸市郎	学習院合唱団・鎌倉コールと合同
1955.12.17	ブラームス ドイツレクイエム	伊藤 京子 伊藤 亘行	東京交響楽団 前田幸市郎	学習院合唱団と合同
1956.3.11	ベートーベン 交響曲第9番	伊藤 京子 栗本 尊子 柴田 睦陸 秋元雅一朗	東京交響楽団 前田幸市郎	学習院合唱団と合同
1956.7.11	フォーレ レクイエム	伊藤 京子 伊藤 亘行	東京交響楽団 前田幸市郎	学習院合唱団と合同
1956.8.	ボロディン ゲッタン人の踊り		東京交響楽団 前田幸市郎	アサヒビール・コンサート 学習院合唱団と合同
1957.4.3	メンデルスゾーン オラトリオ「エアリア」	三宅 春恵 松内 和子 木下 保 秋元雅一朗	東京交響楽団 前田幸市郎	学習院合唱団と合同
1957.10.14	ベートーベン 交響曲第9番	柴田喜代子 川崎 静子 柴田 睦陸 伊藤 亘行	東京交響楽団 前田幸市郎	アサヒビール・コンサート 学習院合唱団と合同
1957.11.24	ヘンデル オラトリオ「メサイア」	大熊 文子 松内 和子 木下 保 大賀 典雄	東京交響楽団 前田幸市郎	学習院合唱団と合同
1957.12.1	クリスマスキャロル他		東京交響楽団 前田幸市郎	産経クリスマスライブ・キャンドルコンサート
1958.5	ブラームス ネーニュ ブラームス 運命の歌		東京交響楽団 前田幸市郎	第54回都民シンフォニー・コンサート
1958.8.28	ベートーベン 交響曲第9番	毛利 純子 池田智恵子 石井 昭彦 大橋 国一	東京交響楽団 前田幸市郎	アサヒビール・コンサート 学習院合唱団と合同
1958.12.28	*ブルックナー ミサ曲第3番「大ミサ」	奥田智恵子 佐々木成子 木下 保 秋元雅一朗	東京交響楽団 前田幸市郎	
1959.3.29	グノー ミサ・ソレムニス(抜粋)	稲畑 絢子 灰谷栄一郎 坂本慶之祐	オルガン:島田麗子 前田幸市郎	
1959.12.6	ベートーベン ミサ・ソレムニス	柴田喜代子 佐々木成子 木下 保 秋元雅一朗	東京交響楽団 前田幸市郎	学習院合唱団と合同
1959.12.25	ベートーベン 交響曲第9番	三宅 春江 栗本 尊子 柴田 睦陸 石津 憲一	東京交響楽団 N.マルコ	TBS TV出演
1960.5.19	ブラームス アルト・ラブソディ	別所 恵子	東京交響楽団 前田幸市郎	第70回都民シンフォニー・コンサート
1960.9.28	*ブルックナー ミサ曲第2番		東京交響楽団 前田幸市郎	宗教音楽研究会合唱団とジョイント
1960.12.10	ヴェルディ レクイエム	毛利 純子 川崎 静子 柴田 睦陸 秋元雅一朗	東京交響楽団 A.ヤンソンス	東京交響楽団特別演奏会
1961.12.21	ブラームス ドイツレクイエム	伊藤 京子 中山 梯一	東京交響楽団 前田幸市郎	学習院合唱団と合同
1962.6	フォーレ レクイエム	長 恭子 中村 俊一	オルガン:松本和子 前田幸市郎	
1962.12.4	ベートーベン 交響曲第9番	伊藤 京子 戸田 敏子 森 敏孝 中山 梯一	東京交響楽団 A.バウルミュラー	東京交響楽団定期及び特別演奏会
1962.12.23	*ブルックナー ミサ曲第1番	瀬山 詠子 中村 浩子 楠瀬 一途 芳野 靖夫	東京交響楽団 前田幸市郎	学習院合唱団と合同
1963.12.22	ベートーベン ミサ・ソレムニス	土屋 可愛 野崎 幸子 中村 博之 秋元雅一朗	東京交響楽団 前田幸市郎	東京合唱団創立10周年記念 学習院合唱団と合同
1964.12.20	シューベルト ミサ曲第5番	真島 美弥 北村 幸子 下野 昇 池田 明良	東京交響楽団 前田幸市郎	学習院合唱団と合同
1965.5.31	中田喜直童謡集(混声)指揮:楠瀬一途 清水脩 毛鏡の三つの詩(男声) クレッチェル イタリーのスケッチ(女声) 宗教歌曲集(男声) ロッシェニ 信仰・愛・希望(女声) ブラームス 哀悼歌、運命の女神の歌(混声)		ピアノ:石川治子 長 恭子 前田幸市郎	第1回東京合唱団コンサート
1965.12.19	*ドヴォルザーク レクイエム	嵐野 もと 安居史恵子 田原祥一郎 持田 篤	東京交響楽団 前田幸市郎	学習院合唱団と合同
1966.5.16	信時潔作品集(混声) シューベルト ドイツミサ曲(男声) ブーランク 聖母マリアへの連祷他(女声) スコットランド民謡集(混声)		オルガン:島田麗子 ピアノ:石川 治子 前田幸市郎	第2回東京合唱団コンサート
1966.6.9	モーツァルト レクイエム	伊藤 京子 中村 浩子 村地 健 芳野 靖夫	東京交響楽団 A.ヤンソンス	東京交響楽団定演
1966.12.4	フォーレ レクイエム *シャルパンティエ 真夜中のミサ曲	嵐野 もと 西山早智恵 矢野 恵子 芳野 靖夫 河瀬 柳史	東京交響楽団 オルガン:島田麗子 前田幸市郎	学習院合唱団と合同
1967.4.3	ベートーベン 交響曲第9番	伊藤 京子 長野羊奈子 藤沼 昭彦 高橋 修一	東京交響楽団 秋山 和慶	東京交響楽団定演(再建3周年記念)
1967.6.28	バッハ カンタータ第6,第131,第182番 モテット第3番	市丸 蒼生 板橋 勝 持田 篤	リディア室内合奏団 前田幸市郎 オルガン:島田麗子	第3回東京合唱団コンサート

●東京合唱団演奏歴

*印は本邦初演

演奏年月日	演奏曲目	独唱者	オーケストラ・指揮者	備考
1967.8.	バッハ カンタータ第182番 モテット第3番		オルガン：植田義子 前田幸市郎 ピアノ：長恭子	岡谷せせらぎ合唱団・オリンパス光学合唱団とジョイント
1967.11.28	*M.デュルフレ レクイエム	中村 浩子 芳野 靖夫	ABC交響楽団 前田幸市郎	学習院合唱団と合同
1968.5.20	ブルックナー コラール・ミサ他 ブルックナー モテット 5曲 バッハ カンタータ第80番	安田 祥子 市丸 蒼生 板橋 勝 築地利三郎	オルガン：島田麗子 前田幸市郎	第4回東京合唱団コンサート
1968.12.3 1968.12.5	ヘンデル オラトリオ「メサイア」	井崎 洋子 齊藤恵美子 成田絵智子 栗林 義信 鈴木 寛一 梅原秀次郎	東京フィルハーモニー交響楽団 オルガン：島田麗子 前田幸市郎	藤原歌劇団創立35周年記念公演 学習院合唱団・藤原歌劇団合唱部と合同
1968.12.9.	ベートーベン 交響曲第9番	小池 容子 安居史恵子 砂川 稔 蔵田 裕行	東京交響楽団 ツデネク・コシュラー	東京交響楽団定演
1969.9.1	ブラームス ドイツレクイエム	中沢 桂 原田 茂生	日本フィルハーモニー交響楽団 前田幸市郎	日本フィルハーモニー交響楽団特別演奏会 東京合唱団創立15周年記念
1969.12.5	ヴェルディ レクイエム	山口 和子 成田絵智子 J.ザンピエリ 田島 好一	東京フィルハーモニー交響楽団 前田幸市郎	学習院合唱・藤原歌劇団合唱部と合同
1970.6.17	マーラー 交響曲第8番	大川 隆子 佐野 順子 中村 邦子 春日 成子 井原 直子 金谷 良三 吉江 忠男 佐藤征一郎	日本フィルハーモニー交響楽団 小沢 征爾	日本フィルハーモニー交響楽団第203回定演出演 プロ合唱団連合 他共演
1971.9.25	バッハ カンタータ第131,140,182番	中村 邦子 菊池 洋子 藤沼 昭彦 芳野 靖夫	ローリエ管弦楽団 前田幸市郎	
1971.12.15	ハイドン オラトリオ「四季」	中村 邦子 藤沼 昭彦 平野 忠彦	ローリエ管弦楽団 前田幸市郎	
1972.10.27	フォーレ レクイエム *グノー 聖セシリアの為のミサ・ソレムニス	中山早智恵 篠崎 義昭 芳野 靖夫	神奈川フィルハーモニー管弦楽団 前田幸市郎	
1973.10.9	*リスト グランのバジリカ落成の為のミサ・ソレムニス	蘇我 栄子 石光佐千子 鈴木 寛一 芳野 靖夫	日本フィルハーモニー交響楽団 前田幸市郎	
1973.12.20	*ベーム カンタータ第1,第6,第7,第10番	沢田 祥子 末 芳枝 宮下 正 持田 篤	巖本真理弦楽四重奏団他 前田幸市郎 オルガン：島田麗子	東京合唱団教会コンサート
1974.10.18	バッハ マタイ受難曲	曾我 栄子 菊池 洋子 藤沼 昭彦 持田 篤 高橋 修一	東京ソリスト 前田幸市郎	東京合唱団創立20周年記念 グローリア少年合唱団と合同
1975.5.23	ブルックナー コラール・ミサ ブルックナー モテット8曲		巖本真理弦楽四重奏団他 前田幸市郎 オルガン：島田麗子	東京合唱団教会コンサート
1975.12.10	バッハ サ曲口短調	中沢 桂 石光佐千子 藤沼 昭彦 高橋 修一	東京ソリスト 前田幸市郎	
1976.6.4	バッハ モテット第2,第5,第6番 ブラームス モテット作品29,作品74		オルガン：植田義子 前田幸市郎	東京合唱団教会コンサート グローリア少年合唱団と合同
1976.11.22	バッハ ヨハネ受難曲	加藤 綾子 菊池 洋子 藤沼 昭彦 持田 篤 高橋 修一	東京ソリスト 前田幸市郎 オルガン：島田麗子 チェンバロ：及川	
1977.5.24	バッハ モテット第3番 ブルックナー ミサ曲第2番		金石幸夫プラスアンサンプル 前田幸市郎	東京合唱団教会コンサート
1977.10.21	モーツァルト レクイエム	市川 倫子 菊池 洋子 鈴木 寛一 芳野 靖夫	日本フィルハーモニー交響楽団 前田幸市郎	
1977.12.21	ベートーベン 交響曲第9番	常森 寿子 春日 成子 水沢 三郎 岡村 喬生	日本フィルハーモニー交響楽団 エルヴィン・ルカーチ	日本フィルハーモニー交響楽団定演出演
1978.6.15	ブルックナー ミサ曲第3番「大ミサ」	中沢 桂 菊池 洋子 鈴木 寛一 芳野 靖夫	日本フィルハーモニー交響楽団 前田幸市郎	
1978.12.5	バッハ モテット第1番 G.ガブリエリ 「サクレ・シンフォニー」より		金石幸夫プラスアンサンプル 前田幸市郎	東京合唱団教会コンサート
1979.6.6	バッハ カンタータ第4,第147番 G.ガブリエリ 「サクレ・シンフォニー」より	松井 洋子 郡 愛子 牧川 修 高橋 啓三	リディア室内合唱団 前田幸市郎	
1979.12.12	フォーレ レクイエム コダーイ ミサ・プレヴィス	田中 順子 田口 孝子 豊田喜代美 宗 孝夫 佐伯久美子 有川 文雄	日本フィルハーモニー交響楽団 前田幸市郎	
1979.12	コダーイ ミサ・プレヴィス クリスマス・コラール集より		オルガン：植田義子 前田幸市郎	ICUクリスマスコンサート
1980.9.17	ブラームス ドイツ・レクイエム ブラームス アルト・ラプソディー	常森 寿子 菊池 洋子 芳野 靖夫	日本フィルハーモニー交響楽団 前田幸市郎	学習院OB合唱団、東京大学コール・アカデミーと共演
1980.11.24	ヘンデル オラトリオ「メサイア」	井崎 洋子 塩崎 朋子 吉田 博久 玉木 豊	東京ソリスト 前田幸市郎	
1981.9.17	ブルックナー ミサ曲第2番 フレスコバルディ二重コーラスの為のミサ曲 デュルフレ グレゴリオ聖歌の主題による4つのモテット		オルガン：島田麗子 滝沢理子 前田幸市郎	東京合唱団第40回演奏会
1982.4.25	バッハ ヨハネ受難曲	永尾 和子 山岡 敦子 吉田 功 持田 篤 石黒 達朗	東京ソリスト オルガン：島田麗子 前田幸市郎	
1982.11.26	ハイドン 十字架上のキリストの最後の七つの言葉 ハイドン ミサ曲第9番「ネルソン・ミサ」	中沢 桂 山岡 敦子 阿部 純 宇佐見桂一	KMG合奏団 前田幸市郎	ハイドン生誕250周年記念

●東京合唱団演奏歴

*印は本邦初演

演奏年月日	演奏曲目	独唱者	オーケストラ・指揮者	備考
1983.4.29	T.L.ヴィクトリア モテット ブルックナー ミサ曲第2番		金石幸夫・ブラスアンサンブル 前田幸市郎	
1983.12.11	モーツァルト レクイエム	永尾 和子 山岡 敦子 阿部 純 佐浦 国雄	東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団 前田幸市郎	ゴールデンコンサート
1984.7.8	モーツァルト ミサ曲ハ短調	常森 寿子 浅田 啓子 佐々木正利 真田 直規	日本フィルハーモニー交響楽団 前田幸市郎	合唱団「たかね」と合同
1984.10.26	ブルックナー モテット フォーレ レクイエム	加藤 綾子 宇佐見桂一	オルガン:佐藤みさ子 前田幸市郎	チャリティコンサート
1985.4.21	バッハ カンタータ第66,第67,第104,第134番	菊池 洋子 佐々木正利 宇佐見桂一	KMG管弦楽団 前田幸市郎	J.S.バッハ生誕300年記念
1985.11.22	バッハ モテット第227,第230番 バッハ カンタータ第4,第56番	小池 哲郎	オルガン:植田義子 前田幸市郎	
1986.11.14	バッハ ヨハネ受難曲	常森 寿子 磯野 啓子 佐々木正利 宮下 正 小池 哲郎 宇佐見桂一 オケ中オルガン:池田泉 チェンバロ:伊澤長俊	KMG管弦楽団 前田幸市郎	東京合唱団第46回定期演奏会
1987.10.14	ブラームス 六つの歌曲とロマンス 三つの歌、愛の歌、二つのモテット		ピアノ:小沢さち 須江太郎 前田幸市郎	
1988.4.23	バッハ カンタータ第11番 復活祭オラトリオ バッハ 昇天祭オラトリオ	常森 寿子 菊池 洋子 小松 英典 西垣 俊朗	KMG管弦楽団 前田幸市郎	
1997.8.30	バッハ ヨハネ受難曲	柳沢 亜紀 保多 由子 三山 洋暁 小原 浄二 久住庄一郎 水野 賢司	KMG管弦楽団 前田幸康	
1998.8.30	バッハ カンタータ第131番 モーツァルト フルートとハープの為の協奏曲 フォーレ レクイエム	高橋 節子 大島 博 加賀 清孝	KMG管弦楽団 天田 透(フルート) 三宅美子(ハーブ) 前田幸康	
1999.9.4	藤原義久 北からの挽歌 -MAEDAのテーマと東北地方のわらべ唄による- ハイドン チェロ協奏曲ニ長調 モーツァルト ミサ曲ハ短調	李 恩球 横山 恵子 浅見 順一 水野 賢司	KMG管弦楽団 クリストフ・ヘンケル(チェロ) 前田幸康	
2000.9.10	バッハ カンタータ第68番 モーツァルト ファゴット協奏曲変ロ短調 モーツァルト レクイエム	五十嵐郁子 寺谷千枝子 大島 博 太田 直樹	東京ニューシティ管弦楽団 草間美也子(オルガン) 前田信吉(ファゴット) 前田幸康	学習院OB混声合唱団共演
2001.9.2	グノー 第2ミサ曲(男声合唱) (オーケストラ版編曲:番場俊之) ブラームス ドイツレクイエム	平松 英子 加賀 清孝	東京ニューシティ管弦楽団 草間美也子(オルガン) 前田幸康	オーケストラ版世界初演 東京大学アカデミカール共演 学習院OB混声合唱団共演
2002.8.31	バッハ ミサロ短調	平松 英子 竹本 節子 大島 博 加賀 清孝	KMG管弦楽団 草間美也子(オルガン) 前田幸康	学習院OB混声合唱団共演
2003.9.6	*番場俊之 星の歌(合同演奏) ケルビーニ レクイエム(男声合唱) フォーレ レクイエム	園田真木子 鹿又 透	KMG管弦楽団 草間美也子(オルガン) 前田幸康	東京大学アカデミカールとジョイント・コンサート 学習院OB混声合唱団共演
2004.9.11	ヘンデル オラトリオ「メサイア」	佐竹 由美 寺谷千枝子 大島 博 加賀 清孝	KMG管弦楽団 草間美也子(オルガン) 前田幸康	学習院OB混声合唱団共演
2005.9.3	バッハ ヨハネ受難曲	橋本 美香 栗林 朋子 大島 博 小原 浄二 浦野 智之	KMG管弦楽団 草間美也子(オルガン) 前田幸康	学習院OB混声合唱団共演
2006.9.3	モーツァルト 戴冠式ミサ曲 モーツァルト レクイエム モーツァルト アヴェ・ヴェルム・コルプス	平松 英子 永井 和子 大島 博 佐野 正一	KMG管弦楽団 草間美也子(オルガン) 前田幸康	学習院OB混声合唱団共演

東京合唱団 次回演奏会のお知らせ 2008年9月6日(土) 紀尾井ホール メンデルスゾーン作曲 オラトリオ「パウロ」作品36

一緒に歌いませんか。団員を募集しております。
ご連絡は 042-421-7242 坂井田まで。

